

5. 水環境保全のための今後の取組 (10)水環境のモニタリングとデータの蓄積

<モニタリングの効率化・重点化と水環境の状況の把握>

モニタリングの効率化・重点化

- ・流域の地質分布、化学物質の使用状況、水道や農業用水の利水状況等を踏まえたモニタリング地点の設定
- ・迅速、簡易な水質分析法の導入の検討

「望ましい水環境像」や「水環境保全の目標」を踏まえた項目(水質、水量、水生生物等)についてモニタリングを実施

水環境の状況の把握

<水環境に係るデータの蓄積>

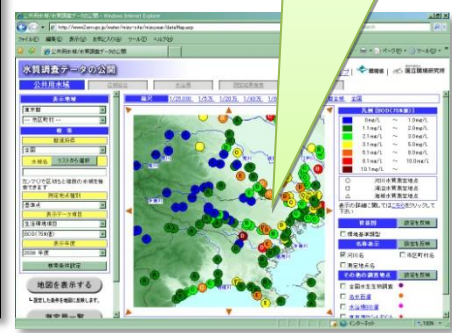
モニタリング結果等のデータを蓄積し、今後の水環境行政や学術研究の推進に各省庁、大学、関係機関等が活用するとともに、広く国民に対して水環境の状況を公表する。

<水環境関連情報の集約>

各省庁等における水環境関連情報について、その内容や所在を整理し、それらの情報を一元的に集約する。

【水環境に係るデータの蓄積と活用(イメージ)】

各省庁等の水環境関連情報を集約して公表



行政資料として活用

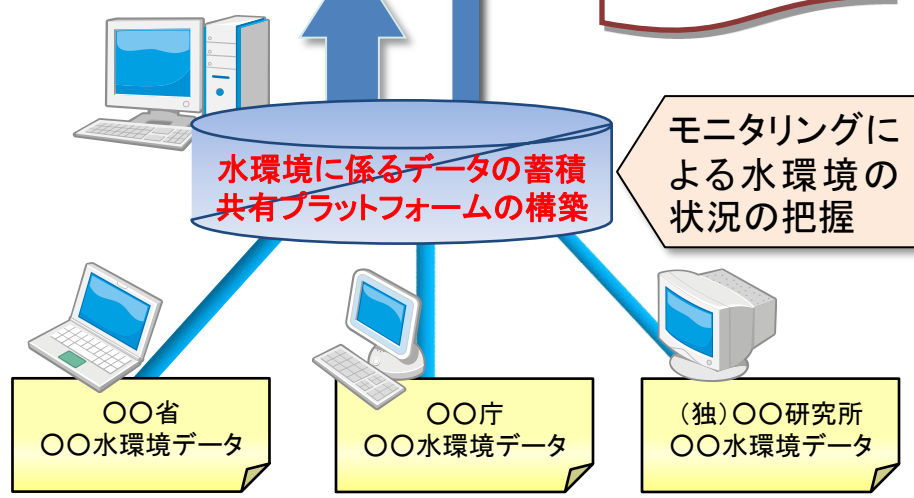
- ・施策立案
- ・効果評価

学術研究へ活用

- ・現況把握、機構解明、対策立案などの研究

水環境に係るデータの蓄積共有プラットフォームの構築

モニタリングによる水環境の状況の把握



5. 水環境保全のための今後の取組 (11) 統合的な環境管理の検討

現状

○環境問題は多岐に渡り、相互に関連しているが、各分野に規制法等があり、それらに基づいて対策等を実施。

課題

○環境負荷の低減にはコストがかかるが、各環境分野の取組の環境全体への負荷低減について、費用対効果が十分に検証されているとは言えない。

今後の方向性

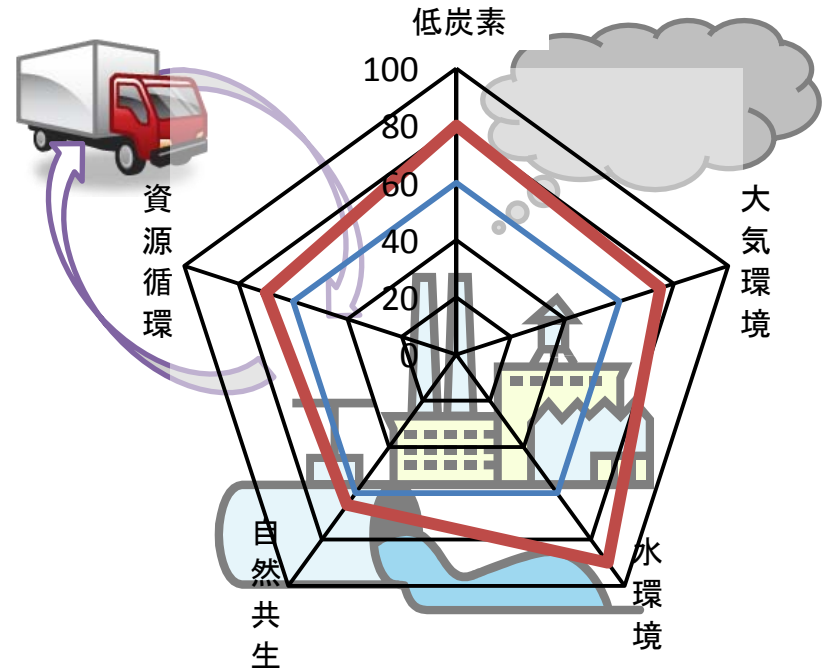
○多岐にわたる各環境分野の取組を、環境全体として総合的に評価する方策を今後検討。

- ・BAT (Best Available Techniques 「利用可能な最善の技術」)
- ・ポリシーミックス (複数の政策手段を活用)

など

統合的な環境管理のイメージ

例えば、各分野の取組の数値化し、それらを総合的に評価し、環境負荷低減への貢献度を可視化。

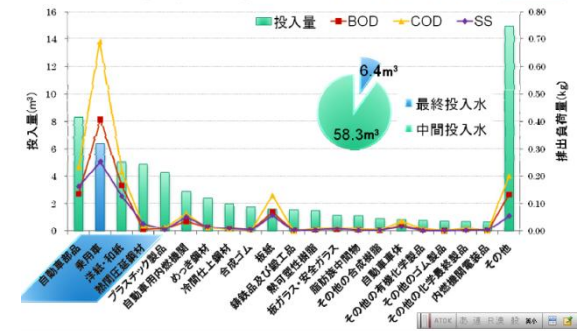


参考: 水分野の総合指標になりうるもの

ウォーター・フットプリント
 ← 生産活動にともなう水環境への負荷(水量・水質等)を指標化。

ウォーターライフサイクルアセスメント(WLCA)による水資源量、汚濁負荷量の算定(東京大学)

乗用車のWLCA



5. 水環境保全のための今後の取組 (12) 施策のマネジメントサイクルの確立

